

令和 7 年度 第 1 回総社公民館運営推進委員会

開催結果概要

委嘱状の配付後、委員自己紹介、委員長、副委員長選出を経て全ての協議事項について、承認されました。

委員長：小畑自治会連合会長 副委員長：萩原社会福祉協議会長
意見及び質疑応答の概要は以下のとおりです。

(A 委員)

幅広い世代の地域住民にとって開かれた公民館になっている。

特に子育て関係のいろいろなプログラムが用意されていたり、夏休みにサマーチャレンジも開催し、今年度は、勉強編では六中のボランティアの人も協力いただいていることで、地域の学校との触れ合いも計画しており、とてもいいことである。

(B 委員)

子育て親子支援では、幅広い年齢層への事業が展開されていて、特に私たち保健推進員が関わっている事業は、すすく教室と、子育て支援講座であります。一時参加人数が少なかったのですが、参加者子供の対象年齢を下げたり、地域を総社地区に限定しないことなどにより、去年あたりは定員に達しているということで、私たち保健推進員もすすく教室では、託児も担当しているので、今後も頑張っていきたいと考えています。

桜が丘集会所事業も、いつも内容を検討していただき、募集しても回覧板を回しても、なかなか参加者が集まらないので、個別に声を掛けて、なんとか 20 人くらいは集まっている状況です。

自治会長はじめ、担当と相談いただきながら、意義のある事業を、続けてもらおうとありがたいと思いますので今後もよろしくお願いします。

(C 委員)

主に、食生活改善推進員は、すすく教室、サマーチャレンジなどで、料理教室を開いているわけですが、大変好評をえているということで、ありがたいと思っています。私たちも会員が少なくなり、大変なところもありますが、そのように地域の人達に、必要とされるということで、引き続き頑張っていきたい。

それと、私たちが独自に企画した料理教室などを館報に載せていただいて、募集をするということが大変いいことであると思います。食生活改善推進員は、何をしているのだろう、そういうところを通して周知されていると思うので、公民館のスタッフの皆さんへは、負担になるかもしれませんが、引き続きよろしくお願いします。

(D 委員)

・六中の生徒がこのようにいろいろな行事にボランティアで参加させていただいていることは、六中の校長も大変よろこんでおり、子どもたちもそれに参加することを楽しみにしている様子だと聞いている。このように地域に子どもたちが関わる機会を設けていただいていることは、大変ありがたいことである。

・サマーチャレンジでは、小中学校今週いっぱい 1 学期が終わりまして、今週土曜日から 8 月いっぱい夏休みに入りますが、いろいろな受け皿を作っていただき、地域の方が中心となって指導いただけることも大変ありがたく思っています。

・公民館だよりを今年度から学校に、もらえることになりました。また、自治会だよりも公民館を通していただいています。見せていただく度に、子どもたちが、どんな地域の行事に参加しているか、また、公民館で小学生が参加できるような行事をいつも開いていただき、私も含めて、職員も地域の様子を知ることができ、大変有難く思っております。

学校からも、月に 1 回、学校だよりを発行させていただいています。お互いに情報交換しながら協力し合っていければいいと思っています。

(E 委員)

要望というか、令和 7 年度、昨年から総社の古墳群が国指定になり、二子山古墳の周辺が追加指定されたりしているので、何か地域で公民館事業の中で古墳の PR ができればいいと考えている。地元の人の意識を高められる、そのようなことができればいいと思っている。

秋元氏は、総社秋元公歴史まつりで PR できるが、総社古墳は地味ではあるが、国が指定するくらい立派なエリアなので、何か地域で PR の応援ができればと思っている。

天狗岩用水が、世界かんがい施設遺産になった際、のぼり旗を作った。古墳周りにも、この辺が、古墳であることを認識できることのできるのぼり旗の作成もいいと思われる。一年中飾っておくわけにはいかないが、文化祭の時とか、秋元公歴史まつりの際にとかに飾るのもいいのではないか。

(F 委員)

「総社の史跡」改訂版を発行し、発刊記念として、今年 6 月に右島先生に、「ますます高まる総社古墳群の価値 – 最近の基礎調査の結果から – 」と題して講演いただいた。講演内容もよく、総社地区以外の人も聞きに来ていた状況であった。

また、毎年、ユネスコ協会もウォークラリーで、古墳めぐりを実施している。

(G 委員)

毎年、子ども向けに夏休みに土器などを作る事業は、文化財保護課で企画して行っていて、参加者も多い。

私は、資料館の説明員も行っているが、確かに、これだけのものが総社にあって、私たちも地元にい

るわけなので、もっと、PR していきたい。

資料館の利用者は、市内小学 4 年生が必ず一度は、資料館へ社会科見学で訪れることになっているが、目的は天狗岩用水と秋元氏となっているので、古墳は対象外となっている。

地元において、利用者の方が、せっかくこれだけの資料館があるにも関わらず、あまり利用者がいないというのが現実でありまして、小学生含めて何千人でありますので、小学生を除くとガクッと利用者が減ってしまう状況です。

しかも、現実問題として来てくれる一般のお客様は、特に具体的な調査はしていないが、印象では、地元でない方がほとんどと思われます。地元の方は、意外とみていないと思われます。地元の資源は、どこの人でも地元はたいしたことはないだろう。という感覚だろうと思います。

来館者は、ずいぶん遠くの関西圏とか、東京近辺とかの人が、随分来ますが、そういう方々が、特に、蛇穴山古墳と宝塔山古墳の二つの古墳については、石室にすぐに入れる、そして非常にクリアにみられるということで、すごいめずらしいと言っています。すごく喜ばれています。

それを、目当てにわざわざ前橋まで来る方もいる。にもかかわらず、地元では、そんなにという感じが確かにあると思います。そういう意味では、我々を含めて、PR 不足であると感じている。

文化財保護課は、あくまでも文化財の保護であり、独自の予算もいくらも持っていないと思われる。

保護が目的なので、最近知りましたが、群馬県は、文化財保護課は教育委員会ではなく、現在は、地域創生部に所属している。観光を含めて地域を盛り上げる観点で、対応している。

そのようなことを考えると、前橋市では、観光、PR 不足があるのではないかと感じている。

（事務局）

今回、総社古墳群として指定されたことから、文化財保護課も何か PR 方法等検討していることと思われますので、総社公民館も文化財保護課と連携して何かできることを考えていきます。

（F 委員）

地元の資源というのは、子供の頃からあるので、当たり前であると思っているけど、あらためて総社古墳群などを見直すとすばらしいものであると感じている。

（E 委員）

この段階で、なんか地域が盛り上げた方がいいのではないかと感じている。

（G 委員）

総社資料館説明員の会でも、せっかく総社の史跡改訂版が発刊されたこともあり、史跡の何カ所かを巡る企画などにはできないかという話も出ている。